

2021年 か ぜ ひ か

風光れ

人権のたより 第31号 2月10日発行

三重県立津東高等学校



こんにちは、人権担当の川邊広美です。
先月に続いて「桃太郎」です。この広告はJT（日本たばこ産業株式会社）の新聞広告です。以下広告文です。

桃太郎はなぜこの三匹を仲間にしたのか

桃太郎がなぜ、犬、猿、キジという一見ばらばらの三者を仲間にしたのか。そこには、桃太郎の明確な戦略がありそうです。おそらく桃太郎はチームに多様性を取り入れ、ある種のケミストリーを起こそうとしたのではないのでしょうか。最初は合わないこともあったかもしれませんが、でも、心を開き認めあうことができれば個性の違いはお互いを高めあうきっかけになります。違うから、視野が広がる。発見がある。成長ができる。強くなれる。これからの多様性の時代に私たちが学ぶべきことがそこにはあるような気がします。違うから人は人を想う。

犬、猿、キジは化学反応＝ケミストリー＝相乗効果を生むのですね。クラスの中で自分と合う子だけでなく、仲間として連帯していくために、視野を広げて人と出会ってください。

桃太郎が教えてくれたことをもう一度自分のこととしてとらえてみましょう。

『鬼は悪者』という先入観を持たずに読むと、桃太郎が鬼たちの命や財産を奪う『侵略者』に見えてきます。勧善懲悪というわかりやすい構図が音を立てて崩れます。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行により緊急事態宣言が発令されたときは、営業を続ける店舗に貼り紙をしたり、他県ナンバーの車に傷をつけたなど、自粛要請に応じていないと『悪い人』とみなした心ない行為が見受けられました。また、インターネット上では、一方的に『悪役』とみなした人に対する誹謗中傷や、デマの拡散、個人情報についての書き込みが行われるなど、深刻な社会問題となっています。「--警察」ということさえありました。これらの行為に共通することは、SNSなどで形成された「みんなが言っているから」という風潮を後盾にした、匿名による暴力だということです。行き過ぎた正義感で異なる考えの人を排除したり、人権や命を奪う行為は絶対に許されません。

『正義』の反対は『悪』ではないはずですが、『正義』は、価値観と同じように人の数だけ存在します。しかし、いかなる『正義』にも、人の幸せを奪う権利はないのです。大切なことは、相手の気持ちを自分に置き換えて想像し、客観的な視点で考えることだと私たちは学んできました。



「節分」とは立春の前日のことで、2021年は2月2日（火）でした。

皆さんは豆まきをしましたか。冬と春の変わり目である節分には邪気が入りやすいと考えられていたため、鬼を払う行事が生まれました。

「鬼は外」と鬼をおいやるけれど、目には見えない何を追い出すのでしょうか。そして、「福は内」とは常に何を持っていることになるのでしょうか。1度考えてみてください。赤鬼や青鬼、黒鬼というのは、たとえで

す。何をたとえられているかということ、青鬼というのは、どこまでも浸していく水の色で限らない欲の心を表しています。

赤鬼は、燃え盛る火の色で、カーッと燃え上がる怒りの心を表しています。

黒鬼は、腹黒いといわれるように、怨みやねたみの醜い愚痴の心を表しています。

地獄という境涯は、私の欲や怒りや愚痴の心が作り出したもので、それらの心をたとえた鬼たちが、自らを責め立てる、苦しみの世界ということです。まさに自分の中にある鬼滅を目指し、そして常に自分を愛し他人を愛していきましょう。